

会 議 録

- 1 会 議 名 北九州市公立夜間中学校を考える会議
- 2 会 議 種 別 市政運営上会合
- 3 議 題 情報共有
①文部科学省の動き
②北九州市に夜間中学をつくる会の活動
議事
①「あるべき姿」の意見整理について
②校舎位置・施設のあり方について
- 4 開 催 日 時 令和4年7月1日(金)
14時00分 ～ 16時15分
- 5 開 催 場 所 北九州市男女共同参画センター ムーブ
5階大セミナールーム
(北九州市小倉北区大手町11-4)
- 6 出 席 者 構成員10名
総務部長、企画調整課長、事務局
- 7 会 議 経 過

(1) 情報共有① 文部科学省の動き

座長 よろしくお願ひします。

議題に入る前に、第1回議事録の確認をさせていただきます。

お手元の会議録、すでに内容の方を確認していただき、修正等も反映していただいております。最終の確認をお願いいたします。いかがでしょうか。特に問題ないようでしたら、公開の方に進めさせていただきます。

今回の議事録も前回同様、A、B、Cという形で発言者を伏せる形でいきたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

議事録の元データに適宜修正いただいたものを整理し、公開するという

形でよろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは次第に沿って進行します。

まず、情報共有の「文部科学省の動き」について事務局より説明をお願いいたします。

浜崎企画調整課長より説明【資料1、資料1-1】

座長 ありがとうございました。

説明の中で、文化庁の支援制度の紹介がございましたので、F 構成員、よろしければ事業の紹介などをお願いいたします。

F 構成員 ご説明いただいた通り、北九州市においては、北九州国際交流協会が、文化庁からお金をいただいている、現在日本語教育の専門職を4名配置しております。

今、お配りしている資料、63ページと書かれている青い組織図の中ですが、総括コーディネーターを私が担っていて、他に日本語教育のコーディネーターが3名います。大人担当と子ども担当と、それから、最近技能実習生を含む外国人就労者が増えているので、就労者を担当するコーディネーターという担当も設けてそれぞれ1名ずつ、3名配置しています。

このチームが、外国人相談、外国人支援と連携して、生活者としての外国人のための日本語教育に取り組んでいるんですが、日本語学校のように、ちょっとずつ日本語の文法や語彙を積み上げて学んでいくというものとは違って、生活をしている方達が生活に役立つ日本語を勉強できるように、生活情報、生活相談、生活支援を組み合わせた日本語教室を行っています。また同時に、地域に市民ボランティア主催の教室が13教室あるので、日本語教室との繋がり、連携もしています。

北九州市ではないのですが、同じく文化庁の補助事業について、64ページで、神戸市の「夜間中学校における日本語教育の試み」が紹介されています。日本語を教えるうえで、国語教育と日本語教育が混乱されることも多いのですが夜間中学校教員への日本語教育の研修や、夏休みに日本語教室を開催されたというのが神戸市の取組です。

例えば、「ザーザー降ってきた」と言うと、日本人であれば、「雨がたくさん降ってきた」とわかるけれども、「ザーザー」などの日本語の擬音語、擬態語は日本語特有のものなので、日本語を母語としない方には分かりにくい表現です。そういう意味で、国語教育と日本語教育の学び方の違いがあるので、夜間中学校に日本語が分からない外国人の方がいるのであれば日本語教育の専門職がいることが理想です。そこで、公立夜間中学校ができれば、私たちもお役に立てることがあるかもしれないと考えているとこ

ろです。

座長

ありがとうございます。

事務局の説明や国際交流協会の取組について、ご質問があればお願いします。

今日は議題が詰まっていますので、先に進ませていただきます。

(2) 情報共有② 北九州市に夜間中学をつくる会の活動

座長

続きまして、情報共有の②「北九州市に夜間中学校をつくる会の活動」について、ご説明をお願いします。

浜崎企画調整課長より説明【資料1、資料1-2、資料1-3】

座長

ありがとうございます。

こちらの説明についてB構成員、よろしくをお願いします。

B構成員

基本的には、北九州市に夜間中学を作る会を発足させたところから始まるわけです。

義務教育を修了するということができなかった人に、学習の場を提供するのは、行政の責務である。これを会則に書いているのですが、この会では在日韓国・朝鮮人に対する教育における戦後補償の意味も含めて、就学猶予、または現状のまま学校から切り捨てられた人、不登校など様々な事由で義務教育を終えていない人も視野に入れながら、北九州市に公立の夜間中学を設置させることを目的とするということでスタートしました。

前回もお話ししたように、後ろ盾になる法律もない中で、当初、教育委員会の窓口さえありませんでした。市議会や市長部局と交渉しながら、2004年に初めて教育委員会に窓口ができて、企画調整課が担当していた、今に至っているわけです。

「夜間中学憲章」というのは、先ほどご説明していただいた通りです。

あってはならない学校だけれども必要な学校ということは、公立夜間中学校の中でも、ずっと叫ばれている言葉です。

だから私たちも義務教育がきちっと全員に保障できるまでは、特に戦中戦後の混乱の中で、学習できなかった人たちに保障していくということは、大事なことだということで、始めたわけです。

そういうことを決めたのが「夜間中学憲章」です。

それからこんな「夜間中学」を（三次案）に、十年間で終了と書いてあるのは、対象にしている人たちの年齢を考えたら、この程度だろうということで始めたのですが、すでに20年経ってます。いまだに必要とする方がおられるということは、ここの考えが甘かったなと反省をしていると

ころです。

実際に今、城南中学校では、教室は専用教室として使用させてもらっています。特別教室、特に最近は体育館だけですけれども、これは昼間の生徒とずっと共用させてもらっています。一昨日の火曜日にも体育館で体育の授業をいたしました。それから城南中学校は耐震化工事で改修するときにエレベーターが設置されていますので、文化総合発表会を私たちが見学に行くときには、二階三階の展示場には、エレベーターを使って見学できるようにしていただいています。

施設としてはそういうふうな形にしてもらえたらいいなと思います。

授業時間についても、2時間ずつのところ、この夜間中学校で卒業証書を出すところまでは考えていませんでしたので、とにかく勉強したいという人たちに学習の場を、提供することを大きな目標としておりました。

実際、夜間中学を作ることを願いながら、署名運動をがんばってきました。

ある生徒さんが言われてましたけど、ここに来るきっかけを、子どもさんたちから、「お母さん、これなんて読むの」って聞かれたときに、答えられなかったことが一番悔しかったと。

それを何とか取り返したいということで、勉強を始められたのです。

その方が「夜間中学ができたら一番先に入学しますよ」と言ったことは、ビデオに記録されてます。けれども残念ながら、5年ほど前にお亡くなりになりました。こうやって、次々に該当の方がお亡くなりになるので、1日も早く、公立の夜間中学ができることを望んでいます。

また、なにかありましたら、よろしく願いいたします。

座長 ありがとうございます。夜間中学憲章は、「北九州市に夜間中学を作る会」と行政の話し合いの中で作っていったと理解してよろしいでしょうか。

B 構成員 いいえ。憲章は、委員会との話し合いで制定したものではありません。これは「つくる会」独自の憲章として、作ったものです。

座長 ありがとうございます。A 構成員からも、補足をよろしく願います。

A 構成員 私はまだ年数も経ってないので、詳しくわかりませんが、ここにある中でひとつ、穴生の夜間学級は穴生小学校で行ってるのですが、私たちには、専用教室はありません。これは、大きな違いなんですね。

学ぶ場としては、図書室をお借りしています。そこの準備室にいろんな教材とか機器を置かせていただいています。子ども達が使う場所なので、掲示とか、何もできません。

そこは専用教室と大きな違いですので、できましたらこれからの課題として残していただきたいと思います。

座長 ありがとうございます。C 構成員からも一言お願いいたします。

C 構成員 私は、小学校の時、1年生の1学期まで学校行ったんですね。そしたら妹や弟が生まれたから、うち農家だったので、私は子守をしなきゃいけなくなって、学校に行けなかったんですよ、行きたくても。1年生でやめて、2年生3年生は学校に行けなくて、妹や弟がちょっと大きくなったから、それも、小学校の先生が学校終わってから、いつも親に、「すいません、娘さんを学校に行かせてやってください」って、週に2～3回来てくれたんですよ。それで4年生になって、やっと妹や弟がちょっと大きくなってから、学校に行けるようになって、4年生、5年生、6年生3年間だけ行って、やっと卒業だけはできたのですが、中学校には行けなかったんですね。本当に勉強したくて、それでももう、ずっとしょうがないから、運転免許取ったり、いろいろしました。学校に行っていないことがすごく悔しくて、人に言えないんですよ、恥ずかしくて。役所に行っても何を書かされるんだろうって、すごく不安だったんですよ。それが、大人になってやっと、「夜間学級」に行けるようになって、20年目です。本当に今、すごく嬉しいです。学校に行けるってことは。だから今、小学生とか中学生でもし学校に行っていない人がいたら、本当ちゃんと学校行ったほうがいいよって。わくわくさせてもらいたいですね。今、夜間学級に行けるようになって、もう20年目ですけど、辞めたくないんです。卒業がないっていうから、これずっと勉強したいなって思ってます。本当にありがたく思ってます。夜間中学を、これからもよろしく願います。ありがとうございました。

座長 C 構成員、ありがとうございました。
夜間中学憲章に込められた思いや背景がより深く理解できました。

(3) 議事①「あるべき姿」の意見整理について

座長 北九州市に夜間中学をつくる会の活動と、文部科学省の動きもふまえて、これからの議事を検討いただければと思います。
前回の会議で皆様からいただきましたあるべき姿について説明をいただきました。
整理した結果について事務局から説明をお願いいたします。

浜崎企画調整課長より説明【資料2（1ページから7ページ）】

座長 第1回の内容の整理について、ご質問はございますでしょうか。
前回の皆様のご発言を、キーワードにして、それを整理していただいた
図を示していただきました。
それでは、7ページをご覧ください。「誰が通う学校」、「何を学ぶ学校」、
「どこにあると良い」、「どんな教室・学校が理想」、「どんな機能が必要」、
「学校行事や生徒会」の6つの項目について、考えていきたいと思えます。
その際、「この機能は、重要であり、開校時点で携えておく必要があると。
この機能は優先度が低いため、開校後の後で検討していった方がいいんじ
ゃないか」そういった優先順位も話し合えればと思えます。
それでは、まず1番目ですね、一番上の「誰が通う学校」について説明
をお願いします。

浜崎企画調整課長より説明【資料2（8ページ）】

座長 ありがとうございます。
この点について、意見交換を始めたいと思えます。

B 構成員 表の中で、一番上の真ん中に書いてある、あれは「通えなかった」で
すかね？
「学べなかった」人たちという項目があるんですね。私たちの学級にく
る人たちは、そこの項目にかかわる方ですね。
そして勉強していく中で、最終的に人間を取り戻していく。
学校で今、一番上の方は83歳ですけど、やはり、自分ができなかった
ことができるんだ。あるいは、いろんな人と会うことで、最終的に自分の
生き方を取り戻す、それが一番大きな課題として生徒さんは通っているよ
うに思えます。

A 構成員 私のところに来られている方も、年齢が高い方は通えなかった、学べな
かったっていう方がいらっしゃるんですけど、50代の方は形式的卒業者
ですね。
小学校のときにお母さんを亡くされて、学校に行っても友達とうまくい
かない。中学校には行ったけれども、何が何か全然わからなかったという
ことで、今小学校段階の計算の仕方など学んでいます。
それから、戸籍がなくて全然学校に行けてないという60代の方もいら
っしゃいました。いろんな方がいらっしゃいます。

座長 資料では、左上に優先順位が高いもの、右側にいくにしたがって優先順
位が低いと思われるものを配置しています。このような整理の仕方でも
いいかも含めて、ご検討いただければと思えます。

C 構成員 城南中学校「夜間学級」では、いろんな事情ですよ。行きたくても行

けなかったっていうのは。

親が亡くなったから行けなかった。子守しなきゃいけなかった。農家の手伝いをしなくてはいけない。本当は行きたかったんですよ。

だから、今「夜間学級」に来ている人はすごくうれしいんですよ。

卒業ってしないといけないのかなというか。楽しくてしょうがない。勉強ってこんなに楽しいんだ。今までだったら勉強してなかったときは、役所に行ったり、どこに行っても何か書かされたらどうしようって。今は何書かされても、勉強したっていう自信がある。そういう、心配は一切ないんですね。

だから、夜間中学って有難いって。私だけじゃない、皆さんそう思っていると思います。

座長 ありがとうございます。I 構成員からもお願いします

I 構成員 今支援室では、現役の小中学生を支援しています。

実情は、保護者のニーズが様々で、生活習慣をつけること、家から外に出すこと、また活動を主にさせることなどを言われます。

また、勉強を中心にさせてくださいという要求もあります。

支援室では、規則正しい生活習慣を付けさせ、その中でコミュニケーション能力を付けさせることは十分可能ですが、学習面では、オンライン授業を受けている子どももいますが、現状自学自習なので、学力を付けさせることは弱い面です。

この資料の中に京都市の洛友中学校の説明が載っていますが、京都には不登校の特例校があります。ここには、昼間にも行けるようになっていて、また夜間の生徒との交流もできるとあります。そうすると、支援室に来ている子どもの中で、勉強がわかりたいという子どもに対しては、ここに行けば勉強できるとなれば非常にニーズが高いと思います。現役の子どもが夜通うのは、少し問題点が多いのではないかと思いますので、こういう特例校を作ってあげる方が、現役の子どもにはいいのではないかと思います。

座長 ありがとうございます。

学齢の、現役中学生の位置付けをどうするかということに関わる大事なご意見だと思います。

情報提供ですけど、香川県三豊市にある夜間中学が 3 名の学齢生徒の受け入れを始めたという報道がありました。三豊市は不登校特例校の申請を出してますけども、適応指導教室でもできるようです。

浜崎課長 すいません。事務局から I 構成員にご紹介いただいた洛友中学校について補足をさせていただきます。

皆さんお手元の資料に文科省の資料がございまして、8 ページそれから 10 ページ洛友中学校がございます。

基本は不登校特例校が先にあり、そこに夜間中学生を移設する形でできたと認識しております。

現役の中学生は昼から来てください、となっております。

昼から4コマありまして、次の5時間目が夜間中学校の1時間目と重なるような仕組みになっております。ですから、自動的に不登校傾向のあったお子さんたちと、夜間中学に通って来られる方々が、顔を合わせる仕組みができています。そのまま夜間中学の方々の学びに入っていくのを見ながら、子ども達が帰っていくという仕組みで、京都のまちなかでやられている学校であります。

京都に不登校特例校は2校あるのですが、そのうち1校が、公立夜間中学校と併設されている、そのような学校でございます。

座長 ありがとうございます。

F 構成員、日本語学習の位置付けなど、ご意見あれば。

F 構成員 はい。まさに私の思い描いているとおりです。

日本語だけ学びたいという方たちというのは、例えば大学に入学したいとか、日本語学校で学ぶ、学んでいる留学生たちがこのちょっと右側の位置づけに当たるかなと思います。

ですが、夜間中学校で学びたい外国人の方というのは、日本語だけ学べたらいいというものではなく、生活していく上で必要な情報を知るとか。

例えば、漢字も「半額」と書いているシールが読めるとか、列車の状況が分かるとか。

そういった日本語力をつけていくというのが目標になりますし日本社会で暮らしていくために必要な基礎学力をつけるということは非常に大事だと思います。

「日本語を学びたい」については、図の中では、ちょっと黄色と緑が半々ぐらいに配置されていますが、私の中では、ちょうどイメージしていた感じでした。

座長 気持ちを汲んでいただいた配置になっているとのことでした。

私も前回の議論をきちんと整理していただいたと思いながらも、誰が通う学校を考える際に、「学びたい」人を最優先、その次に「通えなかった／学べなかった」人という整理になっています。この二つは実は結構重なっているという理解も必要だと思います。学校で嫌な思いをして不登校になり「学べなかった」人は、学びの場に身を置くことで再び「学びたい」という思いが沸いてくる。つまり、「学べなかった」人が学校で自分をつくり直していくなかで、「学びたい」人になってくる。

ですので、C 構成員みたいに確固たる意志をもって「学びたい」と、不登校経験者で、まだ今はそこまで強く「学びたい」ということを口に

しないけども、時が来ればっていうふうな人は意外と近いような気がしています。この二つを明確に分けていいものかどうか。ニーズとして表出してくれてる方をやっぱり真ん中に据える気持ちはわかるんですけども、ちょっと気をつけて考えたいなと。

E 構成員、この辺り、いかがですか？ご発言をお願いします。

E 構成員 やっぱり基本は学びたい。それを保障していかなければならないということではないですかね。

通えなかった、学べなかったというのは、それぞれ生徒さんですね、いろんな事情があります。

例えば本校でも、ヤングケアラーで学校あまり行けてないけれども、入試を受けたらたまたま合格したという生徒もいます。

それから、フィリピンから日本の中学校に来て、まだ言葉がわからないのですが、本校の定時制を受けて、合格して入学して卒業していった生徒さんもいました。

また日本語が十分話せないけども、ちゃんと就職している。だから、これはいいと思います。

座長 ありがとうございます。みなさん、よろしいですか。

「誰が通う学校」、の整理をここでいったん区切らせていただいて、次に「何を学ぶ学校」、先ほどから言葉の端々に関連する発言もありましたけども、これについての整理を事務局からお願いします。

浜崎企画調整課長より説明【資料2（9ページ）】

座長 ありがとうございます。

これに関して、またぜひご意見をいただければと思います。

G 構成員いかがでしょうか。

G 構成員 YELL の活動の中でいろいろと話していければと思うんですけども、15 歳以上 39 歳以下の方が YELL に通われているんですが、その中で、やっぱり中学校卒業レベルの学力がまずあるってことはとても大事だろうなあというふうに、思います。

それから自己肯定感と経験が多分繋がるんだろうなと思うんですけども、様々な経験をしていない都合上、自分に自信がなくて、いろんなことができなくなっているっていうのが、割といます。

1 回目の会議にも少しお話しましたが、JRの乗り方がまずわからない。それで外に出かけられないっていう人もいますし。バスの乗り方はわからないので、バスにも乗れないので、遠くにも行けないということもあります。

人に話し掛ける方法がわからないということで一緒に人に話し掛ける方法を調べて、レクチャーするとか、また教えることもありますし、本当に様々な経験値がないっていう状態で、YELLに来られて、そういった経験値をつけていくっていう方が多いのかなと思います。またその中で思ったことをひとつだけ言うと、多世代の方との触れ合いっていうのが大切かなと考えていて、よく YELL にこられる親御さんがよく同世代の方がいますかね、っていうお話をされます。

いや、いますよっていうと、ちょっと怪訝そうな顔されて、いや、実は同世代と関わるのが一番苦手なんですよ、というふうに言われて、もうちょっとお兄ちゃん的な人いますかっていうので、いますよっていう話もするんですけど、同年代と合わなくてっていう方結構いらっしゃるんですよ。

そういったときに、多世代がいて、ちょっと下の人だから面倒みようかなっていうような方がいてくれると、YELL の子もちょっと付き合いやすかったりするのかなあとというふうに思っています。

上の世代の方々がちょっと面倒見てくれたりするっていうのも、あってくれるとありがたいのかなと思っております。

座長 ありがとうございます。多様性を学ぶっていうんですかね、違いを学ぶみたいなキーワードも必要かもしれないですね。

ほかにいかがでしょうか。

E 構成員 先ほど C 構成員のお話の中から、中学校卒業レベルの勉強することで、読み書きができた。

読み書きができることで、自己肯定感があがり自信に繋がった。

自信に繋がったら、皆友達と話をしたり、勉強を教え合ったりできるということで、何を学ぶかということよりも勉強することで、肯定感とか、人間付き合いとか、こんなセットになっているような気がします。

座長 ありがとうございます。学ぶ過程でってことですかね。

ぜひ、D 構成員からもご発言いただければと思いますけども。

D 構成員 もうすでにお話されていた内容と重複するかもしれないんですけども、本校に通っている生徒を見て、いろいろ考えるところとしてはやはり経験不足、いろんな経験をしてこられなかった生徒が多い。

人間関係を苦手としてる生徒ですとか、基本的なところですね、時間を守るとか、お金の使い方とか、そういうところの社会的な基本的なスキルを学ぶっていうことも大事なのかなあとと思います。

いろいろ年齢の方とかいろんな背景を持たれた方がいらっしゃるので、一概には言えないんですけども。

あとはやはり自分のことを知る場所になればいいのかなとも思います。

他のいろいろな人と関わることで、いろいろな経験をする中で、自分のことを深く知って行って、自分が好きな得意なことを発見したりとか、自分の課題を知って、じゃあ次どうしていかってということを考えたりとか、そういう場所が必要なのではないかなと思います。

あとはそこで学んでいろんな経験を経て、じゃあ次のステップとしてはどういうふうに生きていくのかってところですね。

特に形式的な卒業をした生徒ですとか、まだまだこれからの人生が長い子たちにとっては、どういう仕事について、どう生き方をしていくのかというような視野が狭いのかもしれないのですけれども、生き方についても学ぶ、こちらもしっかり伝えていくという場所が必要ではないかなと感じました。

座長 ありがとうございます。

自分を知る、生き方を学ぶというのもとても大事なキーワードだと思いました。年配の生徒さんとかもいらっしゃいますし、外国にルーツある生徒さんもいる中で、違いをね、学んでいく中で、自分の生き方を作っていくということも、大事な夜間中学の学び方かなと思いました。

H 構成員 いかがでしょうか。

H 構成員 今お話の中に出てきた基本的な社会スキルってというのは、不登校であったり、引きこもりだったりして、社会とかかわらないまま、大人になってしまって、そして夜間中学で学ぶ、学び直す人たちにとっては、まずそれを学ぶということはとても大事なことなんじゃないかなと思いました。

どうしても、勉強ばかりに注目が行きがちですけれども、自己肯定感を上げるというような授業というか、取組というかですね。そういう指導も必要かなと感じています。

座長 ありがとうございます。社会スキルや自己肯定感を向上させる学びも、ぜひとのことでした。いかがでしょうか。

A 構成員 年配の方は社会経験を積まれて、学校には行ってないけど、やっぱり生きてこられてるんですね。

60年、70年と生きて生活して、家族も持たれ、そういう方達がここに来ることで、字の読み書きができ、すごく自信を持たれる。

「夜間学級で私が先生と話をするようになったよね、昔は人と話をする事さえできなかった。こうして話できるんだね。」としみじみとおっしゃいます。

学校に行けなかったけれど、長年夜間学級に通われた方は堂々とされますね。自信を持たれています。

けれども、やはり夜間学級に来ること自体が難しい方もいます。1人の30歳前後のお母さんは、わが子に勉強を教えたいという思いで来られま

した。けれども、通い続けることができなかつたです。個別に近くの市民センターでお会いしてみたりしたのですが、やっぱり続かない。

そして、もう来られなくなって、住居も変わられたみたいですし、連絡もできなくなりました。

若い人たちが抱えている、不登校の問題っていうのは、とても大変なんだなと思いました。

座長 ありがとうございます。

私からも一言。社会に順応するだけじゃなくて、社会を生き抜くための社会スキルもそうなんですけども、権利意識や批判的な思考も夜間中学で学んでほしいと思います。

不利な立場に立たされやすい生徒さんも多いと思うので、そういった時に、自分で声が出せたり、助けを求めたりするのも大事な学習内容だなと思って聞いていました。

関連して、中学校の卒業レベルの学力を一番真ん中に置くのかどうかは結構議論が必要だなと思ってます。夜間中学において学力を身に付けることは、手段なのか目的なのか。もしかすると自分を取り戻すというのが一番の目的で、そのために中学校の学力を学ぼうという順番があっても良いのかもしれない。本日、新たに幾つかのキーワードも出てきたので、それらを含めながらですね、もう一度配置を考えていただければと思います。

それでは続いて、「どこにあると良い」についての整理をお願いします。

浜崎企画調整課長より説明【資料2（10ページ）】

座長 ありがとうございます。E 構成員いかがでしょうか。

この配置や挙げられたキーワードに関してご意見があれば。

E 構成員 ちょっとわからない。

座長 ありがとうございます。また発言があればお願いします。

D 構成員、また一言いただければと思いますがいかがでしょうか。

D 構成員 本校に通っている生徒の実態としては公共交通機関を使ってくる生徒がほとんどでして、近くで徒歩・自転車などで来る生徒が多いです。

結構、送迎がないと通えない生徒が多いのかなあという印象を持たれることが多いんですが、意外と送迎がないと登校できないっていう生徒がいなくて。保護者が送迎したら、気持ちも楽に登校できるっていうのも、少しいるんですけども。

また公共交通機関を使って登校してくるって自分で行きたい場所に行くという練習も兼ねているので、送迎で来ている生徒は、卒業までに公共交通機関で来れるように練習しようね、とか場合によっては一緒に練習を

したりってということもありますので、使うことにこしたことはないと思うんですけども、公共交通機関を使って無理なく登校できる立地が、大事ではないかなと思いますし、あとはコンビニが近いという項目出てますけども、これもすごく私も納得がいて、本校も近くにコンビニがあるんですけども。使い方を守ってというか、行ってもいいけど、戻ってこられる時間内に行くとか、そういうルールを決めて、しっかりルールを守って利用していたりとか、あと防犯にもいいかなと思うので、そこはすごく大事な点だなと感じました。

座長 ありがとうございます。

E 構成員 本校について少し述べさせていただきます。

本校は、夜間の高校として171名の生徒が在籍しております。これは岡山から西日本で最大の規模をもっております。

171名のうちに、小倉北区に在住している生徒が38%です。それから小倉南区に在住している生徒は51%です。

門司区に昔、門司高校の夜間制があったんですけど、統廃合で無くなりました。それで本校が2クラスから3クラス、募集定員を120名増やしました。

門司区からは7名ですね。その他が4%、例えば苅田町、豊前市、戸畑区、八幡東区。

生徒さんの通学方法は自転車が10%、バスが15%。本校は、城野駅、JRがすぐ近くなのでJRが30%。モノレールが10%。それから歩いて来るのが27%。18歳以上もいますので、自家用車とかオートバイが8%となっております。

座長 ありがとうございます。

F 構成員 私、スクールバスということをお前回言ったんですけども、自由に夢を語らせていただき「スクールバスがあったら通いやすいな」と思いましたが、図の中ではこの位置だろうなと思います。

外国人の方は、散在していて、ちょっと不便なところに一軒家を買われる方もいらっしゃいます。

不便なところに住んでいると、例えば夜、どこかの日本語教室に行こうとしても、バスを調べると、バスの本数が少なく乗り継ぎも大変で、行ったはいいけど、帰ることができない、だから教室に通えないというようなこともあります。そのような方々の中には、中学校を卒業して来日したから公立中学校には行けない、でも日本語もわからず高校にも行けない、どこにも行けない子もいて、具体的にその子のことが頭に浮かんで、夢を語らせてもらいました。

とはいえ、現実的には、市内の散在しているところにスクールバスを全

部巡回させることもできないと思うので、スクールバスは将来の課題として対応していくのかなと思います。外国人の方は、JRやバスの表示の日本語が難しく、さらに、全くシステムが違って、乗り方や払い方もわからないこともあるので、入学前後に、家から夜間中学校まで通学するための乗り方のオリエンテーションの場があればいいなと思います。

それを、公立夜間中学校の中でするのか、他機関と連携して支援するかというのは別の話ですが、寄り添った支援、「あなたのうちからだったら、ここからこのバス停じゃなくて、ちょっと離れたバス停にはなるけど、こっちの方が本数があるから便利」とか、そういった情報提供も含めた支援をして、学校に通いやすいようにハードルを下げるようにすれば、この「スクールバス」というのは、今この時点で、固執することではないかなと思います。

あと一つあるんですけど、なかなか経済的に難しい方達が、公立の中学校に通えなかったというケースも多いと思いますが、そうになると、通学費がかなりかかるということで、抵抗感を持たれるということが想定されます。夜間中学校の生徒さんは、学割は使えますか、通学定期とか駄目なんでしたっけ。

浜崎課長 公立夜間中学に通う生徒さんは、基本、JR、西鉄すべて中学生の学割の通学定期として認められると聞いています。

F 構成員 日本で生活していく上で、バスやJRに乗れるということも必要なことだし、通学定期があれば夜間中学校だけではなくて、行動範囲も広がると思います。ただ、それでも通えない方が出てくるかもしれないので、将来的には改めてスクールバスについて検討するというでいいと思います。

座長 ありがとうございます。では、G 構成員お願いします。

G 構成員 前回、通学に便利な場所がいいと私が発言したんですけども、市内に、いくつか若者支援機関というところがありまして、YELL はウエル戸畑にあるんですけども、その他にも北九州若者サポートステーションというのが、小倉駅、黒崎のコムシティの中にありまして、若者ワークプラザ北九州というの、小倉駅、黒崎のコムシティの中にあります。割と顕著なんですけれども、YELL は戸畑にある分、戸畑区と八幡東区の利用者が多いです。

逆に、小倉北区と黒崎にそれぞれあるサポートステーションと、ワークプラザは、門司区、小倉北区、小倉南区、それから八幡西区の利用者が割と顕著に多かったです。

もちろん人口分布の都合で、八幡西区とか小倉南。小倉北区から来る人もいるんですけど、どちらかというと、戸畑区、八幡東区から来る率が他

の人口分布に比べてかなり、顕著に多くなっています。

ということはどこにできるかは多分その近くの人が来やすいなあというのが一つと、あとスクールバス、むしろ推したいなと思って今ちょっと思ったんですけど、これ何かって言うと、F 構成員が話されたように、夜帰りの電車多分少なくなるんじゃないかな。

仮にスクールバスを使ってくれれば、夜に本数は出るけれども、帰りにあるっていうメリットがあるんじゃないかなあというふうに、今ちょっとF 構成員の話を聞きながら思いました。

座長 ありがとうございます。

少し時間も押してきてますので、続いて「どんな教室、学校が理想」についてのご説明よろしくをお願いします。

浜崎企画調整課長より説明【資料2（11ページ）】

座長 はいありがとうございます。

これは主にハード面のことですかね？

浜崎課長 そうです。

座長 ありがとうございます。

これについて、自主夜間中学の関係の皆さん、どうでしょうか。

B 構成員 先ほどお話ししましたけど、教室は専用教室にさせていただくということが一番だと思う。

現在、城南中学校夜間学級には、身障者用多目的トイレも併設してもらっています。それからカギはかかりませんが、個人用のロッカーも作っていただいています。部屋は全部段差のないバリアフリーにしてもらっています。体育館は昼間の中学校の体育館を借りています。保健室はありません。救急箱があるだけです。

それから、職員室というんですか、準備室っていうものも、小さい部屋を作ってもらっていますので、スタッフの打ち合わせなんかはできるところは作っていただいております。

機会がありましたら 1 度見に来ていただけるといいんじゃないかと思っています。ご案内を兼ねて、発言しました。

A 構成員 わたしどもは、さきほど申し上げましたが専用教室がないので、生徒さんたちにとって一番寂しいところだと思います。

もちろん、他のところも共用です。段差は校舎に入るときにありますけど、それ以外は 1 階を使わせていただいているので、たいへん助かっております。学校の施設っていうのが、同じがいいか独立がいいかっていうのはわかりません。同じで、お昼の学校の子どもさんたちを見ることで城南の

夜間学級の方も元気が出るっておっしゃっていますし、生徒さんたちもきくと勉強になると思いますが、穴生の場合は、子どもと出会うことはないです。夜は小学生ですから帰っていますので。

座長 小学校がいいのか、中学校と併設する形がいいのかよくわかりません。
E 構成員 ありがとうございます。
よろしいですか。

私、本校に20年ぐらい前に赴任しました。その当時は、古い木造二階建ての定時制の専用教室がありました。

それで改築が改築工事が始まって、新校舎ができました。

今は全日制と定時制の共用教室です。新しくて立派なんですけど、定時制は定時制の専用教室の方が、お互いに気を使わなくていいですね。

仕事が少し早く終わった生徒は、ちょっと早く来て勉強したりする、利用価値がすごく高いので、専用教室の方が私はぜひいいかなと思っております。

座長 ありがとうございます。

すいません。先にご相談なんですけども、30分ぐらい押しちゃっているの、若干終了時間延びても大丈夫ですか。最大、延びても4時までには、終わればと思います。なるべく早く進行していきたいと思います。

H 構成員 皆さんがおっしゃるように、自分の机、自分たちの教室っていうのは、これは設けて欲しいと思うところです。

自分が中学校に勤めていますので、その視点で考えたところですね。

特別教室は共用ができるし、体育館もできるし、個人用ロッカーは、空きのロッカーがあればそれを使えるし、というふうに考えたところで、中学校の校長として、お宅の中学校に夜間中学校を入れますとなると、悩みの種は専用教室なんです。

毎年、生徒数学級数が増えたり、減ったりします。学級が増える時は、それまで物入や会議室として活用していた空教室を整理しなおして教室を確保するっていうのが、大変な作業なのです。そんな状態の中で、夜間中学校の専用教室を確保するには、どうしたらいいんだろうとずっと考えていました。例えば、30年ぐらい前に、学校に「つどいの木の部屋」という和室をどの学校にも一斉に作った時期があるんです。

15年ぐらい前に、新設・改築されてる学校にはありませんが、割と古い学校の方に、つどいの木の部屋っていうのがあります。それは畳の和室で、一定の広さがあるんです。そこを板張りにして、ひとつの専用教室ができるな。(もしも夜間中学校が) どこかの中学校に定められる時には、そういう部屋がある学校がいいなと思いながら聞いていました。

駐輪場とか、エレベーターというのは、学校によって設置がある学校も

あるんですけども、どの学校にもあるわけではないし、グラウンドの照明もある学校もあります。

けれども、どこの学校でもあるわけでもないの、また、照明というと、近隣の方との折衝も必要となってくる。そこがちょっと難しいところかなというふうには思います。

座長 はい。ありがとうございました。

駐車場で、車で来られる方ってのはあまりこう想定は、特に都市部では駐車場厳しいかもしれないけども、モノレールとかで、離れたところだと車使ったら行けるけどっていう方もいるかもしれないなと思いつつ、聞いてました。

では、続いて次ですね、「どんな機能が必要か」について、ご説明をお願いします。

浜崎企画調整課長より説明【資料2（12ページ）】

座長 ありがとうございました。これについてご意見をお願いします。

E 構成員 本校では給食、米飯給食をしております。月、3200円という値段です。

それから、非課税の家庭と、1年間に50日以上アルバイトしている生徒には県から1200円の補助があります。実質、2000円程度で、生徒は、給食を食べています。

定時制に来る生徒は、経済的に非常に厳しいです。中には仕事しながらも、夕方の給食が一食という生徒も中にはいます。

給食というのは栄養のバランスも良くて、その生徒にとってはすごく、大切な食事の一つだと思います。

ただ本校に入学してくる生徒は、小学校とか中学校で長欠な生徒が多くて、一緒にご飯を食べられない生徒もいます。そういう生徒にも指導しております。

座長 ありがとうございました。自校式ですか、お弁当給食ですか。

E 構成員 調理員さんが作っています。全日とは全然違う。

座長 I 構成員、いかがですか。

I 構成員 一つだけですが、カウンセラーとかソーシャルワーカーが付いていますが、要は子どもたちが相談に行ったときに、相談を聞きやすい場所、スペースが大切だと思います。

支援室には、卒業生で高校に行っている子どもも時々来ますが、胸の内に溜まったものを吐き出しに来ます。そしてまた元気になって、学校に戻るのですが、その場所が支援室内にあります。少し広いスペースに、テーブルと椅子を4ヶ所に置いていますが、高校生は自分からそこに行き、指

導員と話をしてします。

また指導員は、通所生徒で心配そうな表情をしているのを見つけたら、その場所に連れていくと、子どもが何か安心して話をします。

そういう場所は限られると思いますが、そういう場所があるというのは大事だと思います。

また夜間中学の要項に就学支援とありますが、そのうちに生徒の中には、就職していきたいという相談もあると思います。だからこそ安心できる場所が必要だと思います

座長 ロビーみたいな感じですか。

I 構成員 そうですね。

座長 若者や青少年の社会教育施設の職員さんは「ロビーワーク」という言葉を使います。ロビーでたむろしている若者たちから声をかけて、悩みとかニーズを引き出すみたいな仕事ですね。

ほかにいかがでしょうか。

H 構成員 昼間部との交流であげようか、学校行事の生徒会であげようかと思ったのですが、交流という視点からですね、昼間部と夜間部の、間接的な交流と直接的な交流というのがあると思っていて、例えば、文化祭などで展示作品をお互いに、昼間部の生徒と夜間部の生徒と並べて、展示してそれで間接的に交流するとか、それから、探求学習とか総合的な学習の時間で、昼間部夜間部共通のテーマで調べ学習をして、その調べ学習のまとめ新聞を交流するとかというようなこともあると思います。

直接的な交流というと、例えば、本校は、コミュニティスクールとして地域の方と門松づくりを冬にしているのですが、その門松づくりに、夜間部の方からすればちょっと早い時間帯ですが、お昼から参加していただいて、一つのを一緒に作るというような交流もあると思います。

座長 ありがとうございます。

F 構成員 機能なのかわからないのですが、遠隔・オンライン授業とかできたらいいなと思います。

昼間の中学校で実施されているように、夜間中学校でもできれば、遠くでいけないとか、自分で歩くのが難しいとか、障害のある方とか、いろいろなケースにも対応できるんじゃないかと思います。

夜間中学校に通うためのハードルを下げるために、オンライン授業で参加ができるような枠がひとつ、機能のなかにあったらいいなと思いました。

座長 オンライン授業に対応した設備、たしかに必要かもしれないですね。あと、Wi-Fiとかもしかすると、夜間中学は必要かもしれないですね。他にいかがでしょうか。

B 構成員 昼間部との交流でも具体的なこと等を紹介したいと思います。

城南中学校では、もう 10 年以上前から文化祭のステージ部門にも一緒に参加をして、合唱の時の伴奏は、うちの音楽担当のスタッフは自分の学校があって参加できないので、城南中学校の先生が弾いてくれます。

それから、国語の方で漢字能力検定。これは城南中学校の部活に漢字検定部がありますので、その生徒さんたちと一緒に、城南中学校の会場で、漢字検定の試験を受けるということになっています。

それから、最近ちょっと行っておりませんが、夜間学級のスタッフや生徒が城南中学校の部活の応援に行ったこともあります。

相手のチームから、城南中学校の応援席は年齢が高いなとか言われることもありましたけど、機会をとらえて、昼間の学校とは交流しています。城南中学校の校長先生も、そういう形で積極的にご案内していただきますので、ぜひ、今度の新しい公立夜間中学校にも、昼間との交流を、もうちょっと中に入れて欲しいなという気がします。

座長 昼間部との交流の位置づけの優先度を上げてほしいとのこと。
それでは最後、「学校行事や生徒会」についての説明をお願いします。

浜崎企画調整課長より説明【資料 2（13 ページ）】

座長 はい、ありがとうございます。これについてもご意見をお願いします。
D 構成員、いかがでしょうか。

D 構成員 本校で行っているものとしては、ここに書かれているものがほとんどなんですが、あとボランティア活動、清掃活動ですとか。

あと、調理師のコースがありまして、料理教室を開いているので、そのサポートに行ったりですとかそういうものに参加をしたり。あと企業実習ですね、この中ではその職業体験ですね、そういうものも行っていきます。

あとは生徒会ですが、本校も今 7 名で活動してまして、本校自体が、全国に校舎がありますので、交流を積極的に行ってます。

各校舎の地域の文化や歴史について、お互い発表し合ってお互いのことを知ったりとか、あと年に 1 回、2 回ぐらい集まって交流とか研修会を行ったりしてますので、例えば昼の昼間の部の生徒会の交流とか、可能であれば全国の夜間学校の生徒会との交流とかやってみたら、おそらく学びが深まっていいのかなというふうに感じました。

学校行事の生徒会が特別活動に入るものだと思うんですけども、やはり勉強とは、一味違った性質をもっているんで、勉強は苦手だけど、いろんな活動とかそういう中で自分の強みを生かせるなとか、様々な経験をしながらか活躍できるなという生徒も、多くいると、いつも感じています。

なので学校には今日来てないけど生徒会活動には来るとか、そういう生

徒も結構いたりしますので、いろんな経験、学びの場っていう意味ではこの特別活動っていうのはすごく重要であるし、積極的な活用が必要かなというふうに感じます。

座長 ありがとうございます。

他校との交流は大事だなと思いながら聞いてました。私も自主夜間中学の交流会を行った経験がありますが、生徒さんはもちろん、スタッフも元気になるんです。お互いに刺激をもらえて。

他いかがでしょうか。

E 構成員 生徒会活動ですけど、本校に入学してくる生徒は人前でしゃべったりすることがあんまりないんですよ。

それで今ですね、学校としては生徒会を中心に、例えば歓迎遠足とか体育大会ですね。文化発表会とか、生徒会と先生が企画して、生徒が生徒の前で、進行したりする経験がとても重要だなと思っております。

また、本校に入学してくる生徒は県外の旅行とかあんまり経験ないんですよ。それで、本校では3年生で、修学旅行に行っております。

生徒にどこに行きたいかアンケートとってですね、一番行きたい場所ですね。一番人気があるのは、沖縄なんですけど、今コロナ関係で、昨年度は鹿児島と宮崎県ですね。いい思い出を作っております。

座長 ありがとうございます。

それでは学校行事や生徒会については、これで以上とします。

追加でなにか言い忘れたこと、言っておきたいことがあればお願いします。また、この三つの項目のほかに検討すべき項目がもしありましたらですね、ぜひ教えていただけたらと思いますけど、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

I 構成員 ひとつだけ教えてください。

今、夜間学級はB構成員とかがおそらく教えられているんですよ。スタッフは、何人くらいおられるんですか？

B 構成員 城南中学校はスタッフ27名。現職が4名、それから、退職教員が12名、市民ボランティアの方が残りです。

27名で、大体1日6人から7人ぐらいローテーションを組んで、指導に当たっています。

I 構成員 わかりました。ありがとうございます。

A 構成員 穴生は、生徒は11人在籍しておりますが、1日4人前後の出席です。スタッフは全部で15人います。

現職3人、退職教員7人、市民ボランティア5人です。生徒よりもスタッフが多い日がほとんどです。授業は週に3日しかしておりません。

I 構成員 私は少し心配なのは、公立の夜間中学になって、B構成員をはじめ、現

ボランティアの方が参加されるのかです。

B 構成員には私も色々と学ばせていただいた方ですから、尊敬もしています。もう年齢もだいぶいってますよ、先生。

そう考えたときに、後のボランティアスタッフなんかはですね、今後集まるのかです。今はたくさんおられるのでできると思うのですが、そのところが必要なところではないかと思っています。

B 構成員 だいぶ歳はとっておりますけども、第三次案の中に書いてますけど、公立夜間中学校になっても、生徒の学力の差っていうのは相当幅広いと思いますので。1人の先生が授業するだけでは、理解できない。

できれば、授業にボランティアとして参加できるシステムを残してもらえると、応援に行けるのではないかと。それは、希望してますし、もともと城南中学校「夜間学級」を作るときには、公立の夜間中学校ができれば、教員スタッフは全員異動希望を出そうということで始めたんです。

それで20年たったのもう半分ぐらいは退職してしまいましたけど、まだ新しい先生方も増えておりますので、何とか続けていきたいと思っています。

城南中学校「夜間学級」は今、1週間、5日活動しています。毎日やっていますので、公立と同じ日数やっています。

座長 ありがとうございます。

A 構成員、市外から来られる方について、穴生の方はいらっしゃいますけども、考慮すべき点等ありましたら、ご紹介いただければと思います。

A 構成員 市外の直方から1人ですね、50代の方です。それからあと、水巻。近いですが、それでもやっぱり交通は不便なので、スタッフと家族の方が送り迎えをしている状態です。

ご自分で来られる方は徒歩圏内の方。少ないですね。

座長 水巻や遠賀とかになると、やっぱり送迎が必要になってきます。

登校はどうかできても、帰りの時間帯にバスがないので。

それでは他にご意見、よろしいでしょうか。

今日いただいたご意見につきましては、次回までに、事務局の方でまた直していただいて計画案に盛り込んでいただきます。

(4) 議事②校舎位置・施設のあり方について

北九州市立夜間中学校の校舎位置・施設のあり方について事務局から説明をお願いします。

浜崎企画調整課長より説明【資料3】

座長 説明ありがとうございました。
まず前提を確認しておきますけれども、使用する校舎とか施設をここから選ぶとかではなくて、まずはその方向性を議論する。駅からどうかとか、学校校舎がいいのか、それ以外に民間施設でもいいのか、そういった方向性をここで決めたいということによろしいでしょうか。

浜崎課長 そのとおりでございます。

座長 ありがとうございます。

第1回の会議では、校舎位置や施設に求める機能などについてご意見をいただきました。できる限りを反映したいということですが、事務局で用意いただいた資料でわかるように、一長一短あります。

ですので、「駅からの距離が近ければ民間施設でもいい」というふうなご意見、或いは「駅から多少遠くてもいいので、やっぱり学校だ」というふうなご意見もあるかと思えます。

この施設がいいという具体的に名指しいただいても結構だということですので、ご意見をいただければと思います。

F 構成員 説明どうもありがとうございました。イメージがわいてきたような気がします。

距離もそうですが、「とても暗い」とか、さきほどおっしゃったように「坂道をのぼらないといけない」とか、心理的な距離感というものもあると思うんです。徒歩4分の方が、徒歩10何分よりも魅力的だなと思う一方で、例えば小倉中央小学校・小倉幼稚園あたりは、チャチャタウンがあるのでとっても明るいいし、人通りも多いので、安全面ではいいかなと思いました。

座長 ありがとうございます。

B 構成員 私たちが中学校の校舎を借りられるようになったのは、学校の教室で勉強したいと、生徒さんたちが思っていたからです。

最初は公民館を借りて、活動していたわけですが、「先生やっぱ学校の教室で、黒板を使って授業して欲しい」と。その声に押されて、運動を始めて、城南中学校をお借りができるようになったわけです。

だから、事情が許せば、中学校・小学校の校舎を使っていたきたい。

座長 はい。ありがとうございます。アクセスは、多少我慢してでも学校でというご意見ですね。

ほかにいかがでしょうか。

G 構成員 ウエルとばたが書いてありますけど、実際は空いているところ少ないですね。このリストの中で、空いているところ探すのは、多分無理なんじゃないかな。なので、たぶん、今このリストにある学校っていうのが中心なるんじゃないかなあというふうに思います。

またさっき小倉と黒崎と戸畑の話をしましたけど、現状でその城野の方が残ったりとか、穴生とかが残ったりということであれば、ちょっと真ん中の九工大地区とか、なかなかいいかもしれないなというふうに思いました。

座長 ありがとうございます。民間施設の利用は一旦脇に置いておいて考えても良いのではないかというご意見ですね。

まずは学校施設から選ぶと。アクセスの面では、多少駅から距離があってもやむを得ない。ただし人通りも含めて、通いやすいところが良い。地理上の高低差も含めて考える。

大体意見がまとまりそうですけども、いかがでしょうか。まとめでよろしいでしょうか。

それでは、学校校舎が良いというご意見が多かったのも、それを第一案として検討を進めていただくことでよろしいでしょうか。

その際にはアクセスですね、登下校を考慮いただきながら、駅からの距離であったり、地理の高低であったり、人通りなども含めて、候補地を選んでただけたらと思います。ありがとうございました。

すみません。大変長くなってしまいました。

本日の議事については以上です。

(5) 事務連絡

座長 最後に事務連絡がございますので、事務局からお願いいたします。

浜崎課長 第3回の日程のご案内をさせていただきたいと思います。

次回の開催は、8月22日の月曜日でございます。スケジュールの調整をお願いいたします。

次回会議では、今いただきました意見を反映して、できるだけ基本計画案を詰めた形で、ご提示をさせていただきたいと思います。

あわせて、第2回議事録も、座長構成員、皆様の方におきまして、市のホームページに公開する準備ということで、進めて参りますので、議事録できましたら、お送りさせていただきますので、ご確認いただければと思います。

座長 はい。ありがとうございます。

連絡事項について確認しておくこと、でございますでしょうか。

ご意見がないようですので、本日の会議は終了とします。

8 問い合わせ先

教育委員会総務部企画調整課

電話番号 093-582-2357